

あいち病害虫情報 最新情報

令和3年8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台8月12日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みです。また、期間のはじめを中心に前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みです。

8月の中旬から大気の状態が非常に不安定な状態が続いており、局所的に大雨となりました。病害の発生が懸念されますので、適期防除を心がけましょう。

また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

イネ白葉枯病

尾張地方、西三河地方の一部地域でイネ白葉枯病の発生を確認しています。本病は、大雨や強風によって発生が助長され、8月9日に日本海を通過した台風9号及び8月12日以降の停滞前線による大雨、強風により発生が拡大しているおそれがあります。また、名古屋地方気象台8月12日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みです。今後、本病のまん延に適した条件が続くので、浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょ

う。今年、白葉枯病が発生したほ場では、次作へ向けた対策を行いましょ。一次伝染源となるサヤヌカグサなどイネ科畦畔雑草の除草、稲刈り後の被害ワラの除去、次年度の育苗時にプロベナゾールやチアジニルまたはイソチアニルを含む箱施薬（Dr. オリゼフェルテラ粒剤、ブイゲットフェルテラ粒剤、ルーチンエキスパート箱粒剤など）による防除を行いましょ。

イネいもち病

8月上旬の巡回調査では、葉いもち、穂いもちともに発生量は平年並でした。しかし、8月中旬からの長雨により発生が助長されるおそれがあります。葉いもちが上位葉に進展している場合、穂いもちに移行するおそれがあるため、今後の発生状況に応じて防除を行いましょ。

ウンカ類

8月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されていません。また、県内5か所に設置した予察灯においても誘殺されていません。しかし、近隣県において予察灯への断続的な誘殺、本田での発生を確認しています。愛知県においても、トビイロウンカが飛来している可能性があるため、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して早急に防除しましょ。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第6号」を参考にしてください。

セジロウンカの水田内での発生量はやや少ない状況ですが、一部地域で発生が多いほ場が確認されています。ほ場での発生状況に注意しましょ。

斑点米カメムシ類

8月上旬の巡回調査におけるすくい取り調査では、水田内では、過去10年間で3番目に多く、畦畔雑草では、過去10年間で最も多い状況です。水田内では、イネカメムシ、シラホシカメムシ類、畦畔雑草では、シラホシカメムシ類、イネカメムシ、カスミカメ類、ミナミアオカメムシが多く捕獲されています。

特に県内各地の予察灯でイネカメムシが多数捕獲されています。また、一部ほ場でイネカメムシの多発生が確認されています。

あいちのかおりSBLなどの普通期栽培品種は、これから出穂期を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除しましょ。防除対策については、8月3日発表

の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参考にしてください。また、イネカメムシの防除対策については、7月16日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

ダイズのシロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ

県内各地のダイズほ場において、シロイチモジヨトウによる被害が確認されています。本種の発生は近年増加傾向となっていますので、幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。防除対策については、本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

8月上旬の巡回調査において、ハスモンヨトウ、オオタバコガの寄生が確認されています。西尾市、豊田市に設置したフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は5月から7月にかけて多い状況でしたが、現在は平年並で推移しています。オオタバコガは、新葉を中心に食害するため、新葉が盛んに展開する開花期までの防除が重要です。は種時期が遅い作型は特に注意しましょう。

フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数は、8月上旬に長久手市で急増しましたが、ほぼ平年並です。しかし、今後、高温が予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生やハスモンヨトウによる白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。

果樹の病害

7月下旬の巡回調査におけるモモせん孔細菌病の発生ほ場率は、過去10年間と比較するとやや低いものの、依然として多くのほ場で本病が発生している状況です。また、台風9号から変わった温帯低気圧の通過や、その後の豪雨の影響により、今後の感染拡大に注意が必要です。本日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を実施し、次作への伝染源量を減らしましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウべと病の発病葉率はやや高い状況でした。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

果樹の害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は、豊田市及び西尾市に設置したトラップで多く、犬山市及び長久手市に設置したトラップでやや多い状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数は全体的にやや少ない状況です。しかし、豊橋市と新城市に設置した予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、7月下旬頃から増加しています。現時点での誘殺数はおおむね平年並ですが、今後、誘殺数がさらに増加する可能性があります。

7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期予測によれば、早いところでは既にヒノキ林から離脱し、成虫の果樹園への飛来が始まっていると考えられるので、ほ場での発生状況に注意してください。なお、県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期等は、8月3日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が増えることがあるので、注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、蒲郡市のトラップでは、6月から7月にかけて多い状況でしたが、現在はやや少ない状況です。南知多町のトラップでは、6月に誘殺数が急増し7月に入り減少傾向でしたが、7月下旬頃から再び増加し、現在は多い状況です。最新の気象データから予測した成虫発生ピークは表のとおりです。成虫発生ピークが防除適期なので、表を参考に防除を実施しましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日（8月17日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第5世代	8/10	8/9	8/5	8/5	8/11	8/11	8/8	8/9	8/17	8/8	第3世代 7/31
第6世代	8/29	8/28	8/23	8/24	8/30	8/30	8/27	8/27	9/5	8/26	第4世代 8/22
第7世代	9/17	9/17	9/10	9/9	9/19	9/19	9/14	9/13	9/26	9/14	第5世代 9/15

各地のアメダス平均気温から予測。8月16日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市及び田原市のキャベツほ場で多い状況です。詳細は本日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、南知多町のキャベツほ場、豊川市のキクほ場でやや多い状況です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市、南知多町及び田原市のキャベツほ場でやや多い状況です。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴ炭疽病に注意！

7月下旬の巡回調査でイチゴ炭疽病の発生量は多い状況でした。今後も気温が平年並か高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。8月3日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第7号」も参考にしてください。

イチゴのハダニ類

7月下旬の巡回調査で育苗ほでのハダニ類の発生量が多い地域があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ウェブページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820